

第2回 宝達志水町総合計画審議会 議事録

- 1 日時 平成31年2月15日（金） 16:00～18:30
- 2 場所 生涯学習センターさくらドーム 21 2階 視聴覚室
- 3 審議会委員

No.	団体名等	氏名	備考
1	宝達志水町区長会	網 宣雄	欠席
2	宝達志水町老人会連合会	新田 伸吉	
3	宝達志水町民生児童委員協議会	中村 俊夫	
4	宝達志水町教育委員会	山岸 芙美	欠席
5	宝達志水町農業委員会	大山 幹雄	
6	宝達志水町文化協会	廣正 清明	
7	宝達志水町商工会	市村 昭代史	
8	公募委員	岡田 政信	
9	宝達志水町社会福祉協議会	松田 正晴	
10	金沢大学	宇野 文夫	
11	経済・金融評論家	津田 栄	
12	宝達志水町体育協会	寺崎 敏治	
13	石川県中能登農林総合事務所	前川 久義	
14	北陸大学	南谷 直利	
15	宝達志水町PTA連合会	松浦 佐千代	欠席
16	宝達志水町PTA連合会	白川 敬司	

- 3 資料の追加について
 - (1) 財政状況について
 - (2) 町の求人状況について
 - (3) データブックについて

4 議題

- (1) 町民アンケートの追加分析について
- (2) 若者向けアンケート結果について
- (3) 基本構想（案）について
- (4) その他

○：委員発言、●：事務局回答

3. 資料の追加について

- (1) 財政状況について
- (2) 町の求人状況について
- (3) データブックについて

○委員：将来負担率が平成 28 年度から平成 29 年度にかけて大きく減少しているが、何か変化があったのか。

→●事務局：借金をしながら返済しているので、借りている額以上に返済する必要がある。例えば 30 万円借金をしながら 50 万円返済するというような状態を繰り返してきた。しかし、まとめて返済をしたため、借金が減り、その後の返済額が大きく減っている。

→○委員：これからもう一段改善するために、まだ繰り上げ消化をする体力があるのか。自主財源が減ってきている中で、どのように返していくのか。景気が横ばいから下降気味になりつつあり、税収が減る可能性があるため、返済に影響がないか危惧している。

→●事務局：支出を絞りながらも、新しいことができるように計画的な施策づくりに協力いただければと思う。

○委員：有効求人倍率の推移だが、農林漁業が年の途中から記載されている理由はなにか。

→●事務局：有効求人倍率というのは求人と求職のギャップを示すもので、求人が無ければ未記入となる。

○委員：財政の状況をみると厳しい状況が分かるが、隠し財源のようなものはないのか。

→●事務局：埋蔵金という言葉もあるが、そのようなものはない。基金はあるが、公開されているものである。

○委員：総合計画期間の会計別決算額の内容だが、志雄病院の支払いはいつまでであるの

か。

- 事務局：財産の処分などがあり、平成 32 年度までには完了すると想定している。
- 委員：ケーブルテレビ事業について、毎年金額が変動しているがなぜか。
- 事務局：大きく番組制作費と施設維持費があり、番組制作費は変動ないが、施設維持費については、道路工事によりケーブル配線を変更するなどの修繕費が影響している。

○：委員発言、●：事務局回答

4. 議題

(1) 町民アンケートの追加分析について

(2) 若者向けアンケート結果について

- 委員：内容について了承したが、今回は基本構想がメインであり、アンケート結果は参考として活用すればよいだろう。

(3) 基本構想（案）について

(4) その他

- 委員：基本構想のテーマとして「地域資源を活かす」や「からだところを育む」などとあるが、この審議会で具体的な答えをどのように出していくのか。少子高齢化など、かなり難しい問題がある。実際、私の親族や知人がかほく市に移住してしまっている。絵に描いた餅ではなく、具体的な思い切った対策をしていかなければならない。先ほどの新成人アンケートでは、5 割以上の方が「住み続けたい」と回答しているが、生まれた場所であるからであって、定住してもらうためには、新たに来てもらう必要がある。いろいろな意見を持たれている方が集まっているのだから、テーマを絞って具体的な話をしていきたい。また、2 ヶ月に 1 回で具体的な話ができるのか。今後、この審議会をどのように進めるのかスケジュールを知りたい。併せて、前回会議の議事録と意見への対応が必要であろう。

- 事務局：前回提示したスケジュールに沿って進めていく。
- 委員：具体的なテーマを絞って議論したい。
- 事務局：まずは柱である基本構想を決め、その後実際にどういうことをするのかという基本計画を決めるという順番で考えている。あくまで上から順番で決めていくということであり、委員が言われている内容は基本計画にあたりと解釈する。
- 委員：毎回の審議会ごとに具体的なテーマに沿って議論しないと、問題が問題だけに、議論が深まっていけないのではないか。
- 事務局：スケジュールとしては、平成 30 年度までに大まかな方向性を決め、来年度 4 月以降に細かい内容に入っていく。テーマ一つずつを委員の皆さんに任せるといったことは考えていない。基本構想については、パブリックコメントのような場を設け、その後も様々な年代の方とミーティングの機会を設けたいと考えている。

- 委員：まずは、今日出た基本構想の素案がこれでいいかということを決めなければ

前に進めない。次回までに、この素案に基づいて各委員の意見を何かに記入してもらおうなどしてはどうか。

- 委員：私も家族がかほく市に移り住んでおり、やはり具体的な対策が必要である。
- 事務局：事務局としては具体的な施策の議論の段階では、テーマごとにグループを分けようと考えている。また、基本構想が固まってから個別の具体的な話を進めたいと考えていたので、具体的なスケジュールが見えず混乱を招いてしまったと思っている。各回で何を議論するのかを提示しておきたい。
- 委員：2ヶ月に1回、実施するのか。
- 事務局：基本構想については、議会での議決などを経て、年内に決めたい。その後は3ヶ月に一回程度を考えている。
- 委員：3ヶ月に1回では、私の経験上、少ないと感じる。
- 委員：町の予算の仕組みも関係しており、民間企業と進め方が異なるだろう。

○委員：住民がどのように動いて欲しいのかを出すのが基本構想だと考えている。今書いてあるのはサポートすることが書いてあり、これはつまり危機感が表れていないということではないか。審議会では委員の皆さんは危機感の話をしているが、それが反映されていない。住民がやれることを作るのが重要であり、ベースの部分を見直してはどうか。

○委員：第一次のときとは違い、第二次総合計画のテーマからは意欲は見えるが、全体として危機感が不足している。もっと尖った内容があった方が良さだろう。

○委員：今後10年間で想定される課題を整理してはどうか。

○委員：行政だけで全てやれるという時代ではないことを認識し、実際に誰が計画を動かすのか、動かす人に伝わるようにしてほしい。危機感は行政側も持っていると思うので、絵空事にならないようにしてほしい。

○委員：「このままでは町が消滅する」という前提で基本構想を作り直す必要がある。

○委員：私はかほく市に近い地域に住んでいるが、家を建てるならかほく市だという意見が多い。本当にかほく市がいいのかと偵察にいったが、かほく市の図書館ではWi-Fiが使える、職員が市外の人にも丁寧に対応してくれ、意識の高さに驚いた。

○会長代理：町では年間約200名の方が亡くなり、約60名が生まれている。転出転入もあるが、データから見ても人口が減少するのは明白である。計画が絵に描いた餅にならないためにも、審議会で真剣に議論する必要がある。

→●事務局：委員の皆さまの意見を集め、それを取り入れた形で次回の審議会でも議論させていただきたい。

○委員：私は前回、メールで事務局に問い合わせをしている。10年後に今の子どもたちが定住しているような、明確な目標指標があってもよいだろう。また、町内には実習生かもしれないが外国人が一定数住んでいるため、多文化理解の観点も加えてほしい。

○委員：この10年間で宅地化や工業用地の確保などが不十分だったというような各分

野の課題を整理し、審議会で知恵を出しやすくしてはどうか。

- 委員：総人口数のデータでは 2060 年には約 8000 人となっているが、手を打たないとデータよりはるかに少なくなる恐れがある。
- 委員：一番大事なことは何かということ为前提にして計画を立てなければならない。今回の基本構想は網羅的なため、比重を持たせて内容を検討してはどうか。
- 委員：かほく市と同じような都市型の構想では成り立たない。
- 会長代理：人口減少のような重要なものに絞ってやった方が良さそう。
- 委員：年寄りのことはどうでもよく、若い人のことを考えなければいけない。徳島県でのテレワークの事例などのように、地域での暮らしを活かして仕事ができる環境を作り、若い人たちをひきつけるようにしてはどうか。

●事務局：委員の皆さまにメールなどを送付させていただき、意見を収集させていただきたい。また、議論するテーマも絞って進めていきたい。

→○一同：了承した。

- 会長代理：率直な意見として、やはり危機感をもって取り組まないと歯止めがかからない。私の会社の単身者で、町内に単身者用の物件がないため、かほく市から通勤しているものもいる。一般の企業と違い、行政の立場では実行するのにタイムラグが生まれるが、危機感があればいろんな形をとれるのではないか。そういうことも含めて、次回からの審議会が実のあるものになることを期待する。本日は活発な議論に感謝する。

以上